

カイガラムシの防除を徹底しましょう！

～重点防除期間～

6月20日（土）～7月26日（日）

■フジコナカイガラムシの防除対策

フジコナカイガラムシ第一世代のふ化ピーク予測（南信農業試験場）

標高 400m 6月20日 標高 560m 6月26日 標高 680m 6月27日

防除のポイント

◆ 防除適期の目安

- 1回目：ふ化ピークから一週間以内（標高 400～500mは6/20～27 頃、500m 以上は6/26～7/4 頃）
- 2回目：ふ化ピークから約4週間後（標高 400～500mは7/18 頃、500m 以上は7/24～25 頃）

◆ 十分な薬液量をムラなく散布！

粗皮のすき間、へた下、葉の重なった果実表面など薬液が届きにくい場所に多く寄生するため、十分な薬液量でムラなく丁寧に散布しましょう。散布前に徒長枝を整理しましょう。

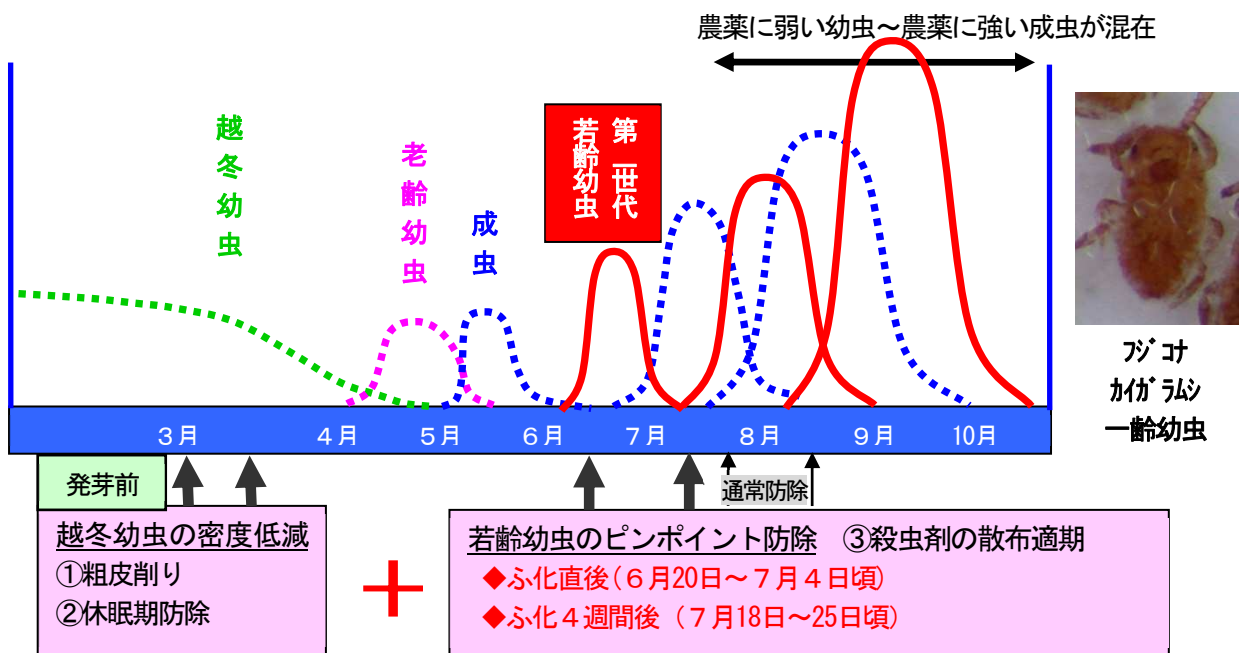


図 フジコナカイガラムシの発生消長（イメージ）
（参考）かきのカイガラムシ類(フジコナカイガラムシ)に対する登録農薬の一例（令和8年6月1日JPP確認）

農薬名	使用濃度	使用回数	使用時期	使用方法	使用量	備考
トクチオン乳剤	1,000 倍	2回以内	収穫 75 日前まで	散布	10a あたり 200L～ 700L	有機リン系 IRAC：1B
トランスフォームフロアブル	1,000～ 2,000 倍	3回以内	収穫前日まで			スルホキシイミン系 IRAC：4
ダントツ水溶剤	2,000～ 4,000 倍	3回以内	収穫7日前まで			ネオニコチノイド系 IRAC:4A 蚕毒に注意
モスピラン顆粒水溶剤	2,000～ 4,000 倍	3回以内	収穫前日まで			ネオニコチノイド系 IRAC：4A

※使用の際はラベルの記載内容をよく読み、最新の登録内容を確認する。 ※モスピラン顆粒水溶剤は蚕毒が特に強いので桑畑付近で使用しない。

■ 円星落葉病の防除対策

- ・ 円星落葉病の子のう胞子は、前年の落葉から5月末～7月上旬にかけて飛散します。
- ・ 感染は6月～7月に起こりますが、病徴（葉に病斑）が現れるのは秋になってからです。
- ・ 発病してからの対応はできないので、6月の感染時期に防除を行う必要があります。

防除のポイント



円星落葉病病斑

◆防除時期

子のう胞子は、通常5月下旬から7月下旬にかけて飛散します。（下図）
フジコナカイガラムシの防除と同じ6月下旬と7月中下旬を重点防除期間として防除を実施しましょう。

◆使用薬剤（下表）

病斑形成阻害効果（感染後にも効果がある）の高い薬剤で防除をおこないます。耐性菌の発生を抑制するため、スコア顆粒水和剤の使用は年1回とします。

◆秋に落葉処理をする

円星落葉病の**伝染源は前年の落葉**です。**落葉は埋設または土壤にすき込み**、翌年に伝染源を持ち越さないようにしましょう。



多発園の様子(10月上旬)

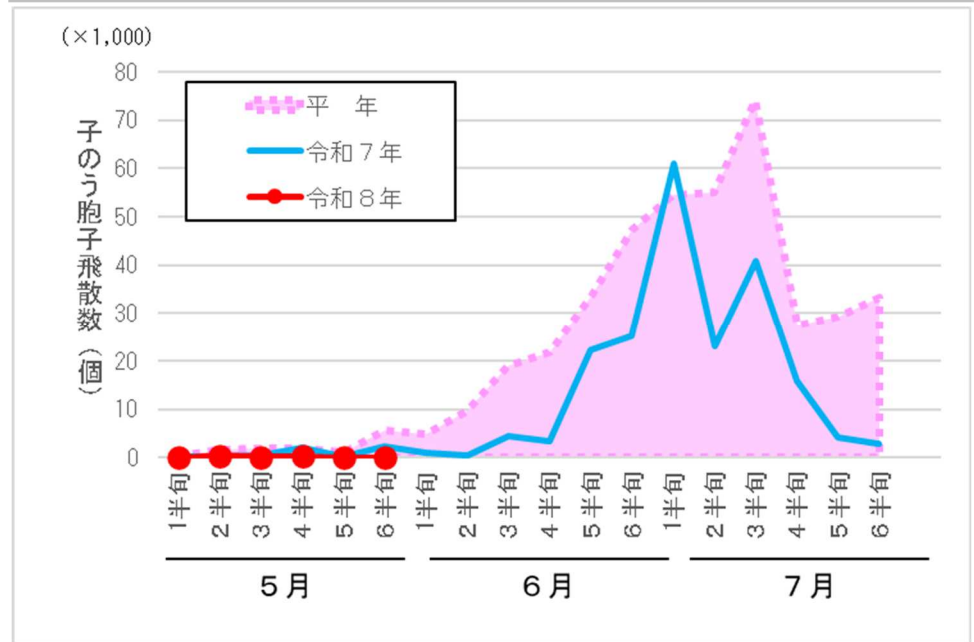


図 円星落葉病の胞子飛散の推移（南信農業試験場データより）

(参考) かきの落葉病に対する登録農薬の一例

(令和8年6月1日JPP確認)

農薬名	使用濃度	使用回数	使用時期	使用方法	使用量	備考
スコア顆粒水和剤	3,000倍	3回以内	収穫前日まで	散布	10aあたり 200L～700L	DMI剤 (FRAC: 3)
ジマンダイセン水和剤	600倍	2回以内	収穫45日前まで			マダブ (FRAC: M3) (IFAC: UN)
オーソサイド水和剤80	1,000倍	5回以内	収穫7日前まで			キャブタ (FRAC: M4)

※使用の際はラベルの記載内容をよく読み、最新の登録内容を確認してください。